

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成26年7月22日(火) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

発 表 事 項

1. トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラムに3名の学生が採用されました
2. 「大学生の規範意識と社会性の発達」を刊行

お 知 ら せ

1. やまがた絆の森(楽天の森)の活動に参加します
2. 研究成果発表ーピーナッツ種皮には(高血糖や老化で蓄積増加する)タンパク質糖化修飾を抑制する因子が含まれるー
3. 山形大学国際化推進事業支援プログラムについて
4. 地域教育文化学部特別講演会「21世紀は大交流の時代」を開催
5. 地域教育文化学部公開講座「21世紀の教育の創造」を開催
6. ひらめき☆ときめきサイエンス「生物の多様性を考える」を開催

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成26年8月5日(火)11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

平成26年 7月22日
山形大学

トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラムに3名の学生が採用されました

(独)日本学生支援機構が募集した、官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」の派遣留学生に、本学から3名の学生が選ばれました。

◆制度概要

官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」は、今年度、(独)日本学生支援機構が実施する新たな事業。文部科学省との連携及び「グローバル人材育成コミュニティ*」に参画する企業からの支援により、“産業界を中心に社会で求められる人材”、“世界で、又は世界を視野に入れて活躍できる人材”の育成という観点から学生を募集し、留学を支援します。

対象：日本の大学、大学院、短期大学等に在籍する日本人学生等

派遣期間：28日以上1年以内

申請コース：①自然科学系、複合・融合系人材コース ②新興国コース
③世界トップレベル大学等コース ④多様性人材コース

支援内容：
・諸外国への留学に必要な経費の一部を奨学金等として支給
・留学経験の質を高めるため、留学の前後に研修を提供
・留学後の継続的な学習や交流の場としての留学生のネットワークの提供

◆派遣概要

本学からは10名の学生が応募し、書面審査(一次審査)と面接審査(二次審査)を経て、以下3名の採用が決定しました。

- ・農学研究科 2年 本田 詩織 インドネシア ガジャ・マダ大学へ5ヶ月間 (自然科学系、複合・融合系人材コース)
- ・人文学部 3年 佐藤 ゆめ インドネシア ガジャ・マダ大学へ5ヶ月間 (新興国コース)
- ・工学部 4年 土屋 みなみ ドイツ ザクセン州経済振興公社へ9ヶ月間 (多様性人材コース)

今後、事前研修を受けた後、採用された留学計画に基づき、本年9月から来年1月末または5月末まで、それぞれの留学先に派遣されます。(独)日本学生支援機構からは、留学準備金(事前・事後研修参加費)及び奨学金等が支給され、派遣終了後は、事後研修を受けるほか、留学後の継続的な学習や情報交換及び交流を可能とする「留学生ネットワーク」に参加することになります。

*グローバル人材育成コミュニティ

平成25年6月に閣議決定された「日本再興戦略～JAPAN is BACK～」等において『高校・大学等における留学機会を、将来グローバルに活躍する意欲と能力のある若者全員に与えるため、留学生の経済的負担を軽減するための寄付促進、給付を含む官民が協力した新たな仕組みの創設』の趣旨により、(独)日本学生支援機構のもとに創設されたもの。企業、国、(独)日本学生支援機構、大学等、学生等の参加が計画されている。

(お問合せ先)

小白川キャンパス事務部学生課留学支援担当
電話 023-628-4927

平成26年7月22日
山形大学

「大学生の規範意識と社会性の発達」を刊行

平成24年度に本学学生の不祥事が続発したことを受け、教育・学生支援担当理事のもとに設立された「学生不祥事防止検討プロジェクトチーム*」の検討結果報告を基に、新たな見解等を加え、まとめた「大学生の規範意識と社会性の発達」を刊行しました。

出版の経緯

平成25年10月の学長定例記者会見において、学生不祥事防止検討プロジェクトチームの検討結果報告として、学生が不祥事を起こす背景について報告しました。その後、プロジェクトチームが調査を継続したところ、小・中学校、高校の生徒や大学生、さらに社会人の中にも「規範意識の未熟さ」を示す人が存在することがわかってきました。これらの検討結果が、高等教育だけではなく初等教育・中等教育及び社会人教育のいずれにも有益な情報をもたらす可能性が出てくることになると考え、このような社会的意義をふまえて、プロジェクトの検討結果を書籍として出版することとしました。

概要

第1部は、「プロジェクトの取り組み結果概要」として全体の結論を、第2部には「不祥事防止検討プロジェクトの取り組み全容」をまとめました。

- ・発行：山形大学出版会
- ・定価：1,000円 + 税

*学生不祥事防止検討プロジェクトチーム

構成は本学教員3名と職員2名の計5名で、平成25年2月27日にプロジェクトがスタートした。
平成25年10月15日の学長定例記者会見において最終報告を発表。

(お問合せ先)

理学部 教授 小倉 泰憲
(学生不祥事防止検討プロジェクトチームリーダー)
電話 023-628-4644

Normative Consciousness
Misconduct prevention study project

山形大学学生不祥事防止検討プロジェクトの取り組みから
**大学生の規範意識と
社会性の発達**

小倉泰憲 編著

福島真司・奥山千尋・栗原利文・門馬甲兒

山形大学出版会

序文 ～本書の社会的意義～	4
第1部 プロジェクトの取り組み結果概要	5
1 学生の特徴	6
2 規範意識及び社会性の未熟さの要因	8
2-1. 規範意識の未熟さについて	8
2-2. 社会性の未熟さについて	10
3 どうすれば良いのか	11
3-1. 「教える」「自信をつけさせる」	11
3-2. 教育と支援に全員で取り組む	12
第2部 不祥事防止検討プロジェクトの取り組み全容	13
第1章 プロジェクトの概要	14
第2章 不祥事事案の分析	16
I. 過去9年間の事案の全体像	16
1. 不正の概要	16
1-1. 社会的な不正	16
1-2. 試験における不正行為	17
2. 種々の側面からの分析	18
3. 分析結果の考察とまとめ	23
II. 平成22年度以降に発生した個々の事案の詳細分析	24
1. 分析対象とした事案と関係者ヒアリングの概要	24
2. 個々の事案の詳細な分析・考察	24
3. 分析結果のまとめ	27
第3章 学生の社会規範に関する諸調査	28
I. 調査目的	28
II. 学生向けサービス事業者に対するヒアリング調査	28
1. 事業者ヒアリングの概要と結果	28
2. ヒアリング結果の考察	30
3. ヒアリング結果のまとめ	32
III. 全学生を対象とするアンケート調査	32
1. 調査目的と方法	32
2. 集計結果(基本属性)	33
3. 学習・生活状況	35
4. 平成24年度の不祥事に対する学生の認識・反応	37
5. 不祥事防止の取り組み	38
6. 本学の相談体制	39
7. 規範意識	40
7-1. 規範意識の調査結果	40
7-2. 罪悪感尺度について	42
8. 社会的スキル	44

8-1. 社会的スキルの調査結果	44
8-2. 社会的自己制御尺度について	46
9. アンケート調査のまとめ	46
IV. 有識者に対するヒアリング調査	48
1. 有識者ヒアリングの概要と結果	48
2. 有識者ヒアリング結果のまとめと考察	52
第4章 不祥事の発生原因の考察	53
I. 地域的要因	53
II. 時代背景的要因	54
1. 30～40年前の状況と現在の比較	55
2. 急激な文化の変動	56
III. 医学的要因	57
1. 検挙人員中の精神障害者の比率	57
2. 大学生の精神障害者	57
IV. 心理的要因	58
1. 規範・道徳性に関する主な理論と社会性の発達	58
1-1. 規範・道徳性に関する主な理論	58
1-2. 社会性の発達	62
2. 不祥事を起こした学生の規範意識と発達段階との関係	64
3. 複合的要因	65
3-1. 円環的因果律	65
3-2. 社会性の成長を妨げるような育て方	65
V. なぜ山形大学なのか/なぜ平成24年度なのか	67
第5章 今後の対策	70
I. 予防的な取り組みの強化	70
1. 一次予防・二次予防・三次予防の枠組み	70
2. 発達課題の克服	71
3. 社会性向上を目指す授業の実施	72
3-1. 社会性発達の教育に必要な4つの視点	72
3-2. 二極化ではなく多様化	74
3-3. 社会性向上を目指す授業の類型	75
4. 学生生活における社会規範の啓発・教育・介入	76
5. 授業や研究指導における社会規範の浸透	77
6. 支援・相談体制の充実化	78
II. 社会性向上を目指す授業の事例	79
1. 参加・体験・実践型の授業	79
2. キャリア教育	80
3. 導入教育に社会性向上を組み込んだ授業	82
III. 大学における社会性向上の取り組みの必要性	83
1. 質の高い教育の実現のため	83
2. 大学ならではの特徴を生かす	83
3. 産業界との関わり	84
IV. 対策の効果と限界	85
おわりに	87
参考文献	88

平成26年7月22日
山形大学

*詳細は別添の資料をご覧ください。

1. やまがた絆の森（楽天の森）の活動に参加します

山形大学は、楽天株式会社、公益財団法人山形県林業公社及び山形県と協働で、「やまがた絆の森（楽天の森）」の活動を実施します。四者が協力して、森林の整備・保全活動を実施し、イヌワシの生息環境となる良好な自然環境を保全・創出します。この活動は、鳥海山麓の升田地区にある林業公社が管理する林地12haを対象に、間伐・下刈り・林道整備等を行うことにより、当地に生息するイヌワシの餌となるノウサギ等の小動物を増殖させ、イヌワシの保護を主とする森林環境の保全を行うことを目的としています。

平成30年度までの予定で、四者で協定を締結し、山形大学では、農学部の林田 光祐教授が担当し、間伐等の森林整備の効果を確認する調査及び楽天が実施する本件活動にかかる楽天への助言及び協力を行います。

2. 研究成果発表

ピーナッツ種皮には(高血糖や老化で蓄積増加する)タンパク質糖化修飾を抑制する因子が含まれる

本学地域教育文化学部食環境デザインコースの小酒井貴晴准教授と株式会社でん六は、ピーナッツ種皮から熱水で抽出した成分には、プロアントシアニジンタイプA低分子群が多く含まれており、その成分をフルクトース水多飲条件下の2型糖尿病モデルマウスへ2週間給与させたところ、血液中タンパク質においてフルクトース誘導性のタンパク質糖化修飾を抑制することを明らかにしました。

この結果は、日本人のように2型糖尿病になりやすい方が、ピーナッツ種皮由来成分を摂取することで、糖分（フルクトース）誘導性の血中タンパク質の糖化反応を抑制し、糖化タンパクが蓄積することが知られている高血糖や加齢性障害（糖尿病、腎臓疾患、皮膚美容、アルツハイマーなど）を低減させる可能性を示唆しています。この成果は、8月29日に福岡で開催される第61回日本食品科学工学会にて発表される予定です。

この研究成果は、肥満などの生活習慣病や加齢に伴う疾患などを抑制する機能性食品の開発や抗糖化薬の創薬に貢献することが期待されています。

3. 山形大学国際化推進事業支援プログラムについて

山形大学では、国際交流の活発化を図るために、「山形大学国際化推進事業支援プログラム」を平成25年度に創設し、国際交流に関する各種事業に対し支援を行っています。平成26年度は、7つの事項について募集を行い、22件が採択されました。

その中から、「留学生と日本人学生及び地域住民との交流事業」に採択された6件の事業について、資料「山形大学国際化推進事業支援プログラム一覧」にまとめました。まもなく実施される事業もありますので、詳細、取材の申込については、国際交流室にお問い合わせください。

4. 地域教育文化学部特別講演会「21世紀は大交流の時代」を開催

日本の観光を牽引している株式会社ジェイティービー相談役の舩山龍二氏を講師にお招きし、特別講演会「21世紀は大交流の時代」を開催します。世界的交流の現状と将来、そして観光の大いなる可能性などのお話を通して、大学における今後の学び、そして将来のキャリアにとって、グローバルな視点で考えるよい機会になると思います。講演会には、一般の方もご参加いただけます。

なお、本講演会のポスターは地域教育文化学部文化創造学科造形芸術コース4年の鈴木絵梨さんが作成しました。

◆日 時：7月25日（金）16：45～18：15（講演）

◆場 所：山形大学小白川キャンパス基盤教育2号館2階222教室

【お問い合わせ：地域教育文化学部事務室 電話 023-628-4304】

5. 地域教育文化学部公開講座「21世紀の教育の創造」を開催

“ほめる・叱る”教育が、平成に生まれて育つ子どもたちとミスマッチ状態にあります。本講座では、民主的な親子関係のあり方（理念）とそこでのコミュニケーション技法（方法）をセットで学べる親学習プログラムSTEPを中心とした内容を紹介し、21世紀を担う子どもたちに、民主的な関係性を経験させることのできる親や教師としてのかかわりを学びます。

◆日 時：8月27日（水）

9月3日（水）・10日（水）・17日（水）・24日（水）

*全日18：00～20：00

◆場 所：山形大学地域教育文化学部1号館114講義室

◆対 象：一般市民（定員50名）

◆受講料：2,000円

◆申 込：7月31日（木）まで、電話またはメールでお申し込みください。

6. ひらめき☆ときめきサイエンス「生物の多様性を考える」を開催

農学部では、高校生を対象に、ひらめき☆ときめきサイエンス「生物の多様性を考える」－土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用－を開催します。

普段はめったに見ることができない大学の研究や研究者との対話、実験などから、科学の楽しさ、難しさ、不思議に触れてみませんか。未来博士号が授与される、高校生対象の特別プログラムです。

◆日 時：9月20日（土）9：00～16：00

◆場 所：山形大学農学部3号館（鶴岡キャンパス）

◆対 象：高校生20名

◆参加費：無料（昼食付）

◆申 込：9月5日（金）まで、E-mail、Fax又は電話でお申し込み下さい。

平成26年7月22日
山形大学

やまがた絆の森（楽天の森）の活動に参加します

山形大学は、楽天株式会社、公益財団法人山形県林業公社及び山形県と協働で、「やまがた絆の森（楽天の森）」の活動を実施します。四者が協力して、森林の整備・保全活動を実施し、イヌワシの生息環境となる良好な自然環境を保全・創出します。

◆活動概要

この活動は、鳥海山麓の升田地区にある林業公社が管理する林地12haを対象に、間伐・下刈り・林道整備等を行うことにより、当地に生息するイヌワシの餌となるノウサギ等の小動物を増殖させ、イヌワシの保護を主とする森林環境の保全を行うことを目的としています。

楽天株式会社は、プロ野球東北楽天ゴールデンイーグルスのマスコットがイヌワシをモデルとしていることから、その保護を目的として活動をしてきました。また、山形県は森林保全活動事業として「やまがた絆の森プロジェクト」を県内各所で行っています。

山形大学では、鳥海山の南山麓で繁殖しているイヌワシの保全を目的とした林野庁東北森林管理局による森林整備において、農学部の林田研究室が地元のイヌワシの森倶楽部と連携して、森林と餌動物であるノウサギの動態に関する詳細な調査を行い、イヌワシに好適な採餌環境を創出する森林整備方法に関する研究活動を行ってきました。

活動の実施にあたり、平成30年度までの5年間の活動を予定し、7月14日付けで四者間の協定を締結しました。

◆山形大学の役割

- ・山形大学では、農学部の林田 光祐教授（森林保全管理学）が担当。
- ・間伐等の森林整備の効果を確認する調査*及び楽天が実施する本件活動にかかる楽天への助言及び協力。

*効果を確認する調査

植生調査：対象地の整備前後の植生の変化を調査する。

ノウサギ生息調査：イヌワシの餌となるノウサギの生息状況を自動撮影カメラと糞粒カウントによって調査する。

イヌワシ行動調査：イヌワシの飛翔・採餌行動を調査する。

（お問合せ先）
農学部企画広報室
菅原 一彰
0235-28-2910

平成26年7月22日
山形大学

研究成果発表

ピーナッツ種皮には（高血糖や老化で蓄積増加する）タンパク質糖化修飾を抑制する因子が含まれる

本学地域教育文化学部および株式会社でん六は、「ピーナッツ種皮から熱水で抽出した成分は、高血糖や老化で蓄積増加するタンパク質糖化修飾を抑制する」ことを、2型糖尿病マウスを用いて明らかにし、8月29日に福岡で開催される第61回日本食品科学工学会にて発表する予定です。

この研究成果は、肥満などの生活習慣病や加齢に伴う疾患などを抑制する機能性食品の開発や抗糖化薬の創薬に貢献することが期待されています。

◆経緯

糖類が体内の様々なタンパク質へ結合すると、最終糖化産物が産生されます。この最終糖化産物は、高血糖状態や老化時に蓄積増加し、様々な障害や疾患の増悪を関与すると考えられています。

もともと、ピーナッツ種皮由来成分には抗酸化物質が含まれていることは知られていましたが、抗糖化作用の有無に関しては理解されていませんでした。今回、地域教育文化学部食環境デザインコースの小酒井貴晴准教授と株式会社でん六は、ピーナッツ種皮から熱水で抽出した成分には、プロアントシアニジンタイプA低分子群が多く含まれており、その成分をフルクトース水多飲条件下の2型糖尿病モデルマウスへ2週間給与させたところ、血液中タンパク質においてフルクトース誘導性のタンパク質糖化修飾を抑制することを明らかにしました。

◆今後の予定

この結果は、日本人のように2型糖尿病になりやすい方が、ピーナッツ種皮由来成分を摂取することで、糖分（フルクトース）誘導性の血中タンパク質の糖化反応を抑制し、糖化タンパクが蓄積することが知られている高血糖や加齢性障害（糖尿病、腎臓疾患、皮膚美容、アルツハイマーなど）を低減させる可能性を示唆しています。この成果は、8月29日に福岡で開催される第61回日本食品科学工学会にて発表される予定です。

今後は、1)機能性を有する因子がプロアントシアニジンタイプAである科学的証拠を確実に得ること、2)その抑制メカニズムを解明して、どのようなタンパク質の糖化修飾を抑制しやすいのかを明らかにすること、3)ヒトでも同様の抑制効果があるかどうかを検証すること、などを明らかにすることで、機能性豆菓子や創薬の原料品などへの応用技術につなげたいと、考えています。

（お問合せ先）
地域教育文化学部食環境デザインコース
小酒井貴晴（電話 628-4354）

平成26年7月22日
山形大学

山形大学国際化推進事業支援プログラムについて

山形大学では、国際交流の活発化を図るために、「山形大学国際化推進事業支援プログラム」を平成25年度に創設し、国際交流に関する各種事業に対し支援を行っています。今年度採択された事業の中から、特色ある支援事業を紹介します。

【プログラム概要】

平成26年度は、山形大学2014年度行動計画「Annual Plan2014」を元に、以下の7つの事業について募集を行いました。選考方法は、国際交流担当理事が審査し、決定。

本プログラムでは、事業の実施をとおして、山形大学の多面的なグローバル化を図ることを目的としています。

- (1) 学生及び教職員の意識改革のためのフォーラム開催事業
- (2) 日本人学生と留学生との交流事業
- (3) 2年間にわたる海外共同研究事業（平成25年度に採択された事業のみ）
- (4) 海外留学及び留学生受入れの障害を改善する事業
- (5) 留学生と日本人学生及び地域住民との交流事業
- (6) 留学生からの意見を反映させる部局長等との懇談会開催事業
- (7) 留学生交流支援制度（JASSO）採択に対する支援事業

【支援状況】

平成26年度は22件の事業が採択されました。その中で、「留学生と日本人学生及び地域住民との交流事業」に採択された6件について紹介します。詳細は別紙のとおりです。

- 1 大学（日本と台湾）と地域（西川町）のスポーツ交流を通しての留学促進プログラム
- 2 工学部国際連携サマープログラム2014（受入）
- 3 留学生による一芸交流会を通じた被災地ボランティア活動
- 4 留学生と山形大学生による世界のボードゲームの紹介
- 5 山形から世界へー多文化交流コンサート2015
- 6 留学生対象実地見学旅行（川西町で交流）

（お問合せ先）
山形大学教育・学生支援部
国際交流課国際交流室
迎 田、楨
電話 023-628-4118

山形大学国際化推進事業支援プログラム一覧

支援事業番号	NO	部局名	事業名	事業概要
(5)	1	地域教育文化学部	大学(日本と台湾)と地域(西川町)のスポーツ交流を通しての留学促進プログラム	台湾師範大学の学生がスキーを通して、山形大学の学生や地域(西川町)と交流をする。この事業は、3年間継続されている事業であり、のべ120名の師範大学の学生が参加している。はじめに西川町に滞在し、スキーの基本を学ぶとともに、西川の文化施設・自然・食文化等や地域住民との交流会で親睦を深め、次いで蔵王スキー場でスキー技術と日本のウィンタースポーツ事情を学習する。本事業は、台湾師範大学運動・レジャー学院の「スポーツ・ツーリズム」の授業となっている。西川町等において、2015年1月実施予定。
	2	工学部	工学部国際連携サマープログラム2014(受入)	海外協定校との連携の強化および日本人学生の国際理解力の向上を目的として、受入れと派遣を1年交替で実施している。2014年はタイ・マレーシア・中国・台湾の4か国・地域の7~8大学から12名の学生を受け入れる予定である。今回のプログラムにおいては、学生交流・専門の講義及び研究室訪問・日本文化体験・ホームステイはもちろんのこと、環境と科学をテーマに工学を学ぶ者が取り組むべき課題についても蔵王合宿にて検討する。共通のコミュニケーション・ツールは英語であり、日本人学生にとっても実践力を身につける絶好の機会となる。工学部において、2014年7月28日から8月8日実施予定。
	3	基盤教育院	留学生による一芸交流会を通じた被災地ボランティア活動	山形大学の各キャンパスで学ぶ留学生を10~13名程度集め、宮城県の被災地に赴き、被災者の前で各国の伝統芸能を披露する「一芸交流会」を開催することで、被災者に元気を送ると同時に、留学生の震災・復興に対する意識・関心を高める。なお、山大学生も同行する。2014年11月実施予定。
	4	実践教育推進センター	留学生と山形大学生による世界のボードゲームの紹介	世界で流通しているボードゲーム(約50種類)を展示する。体験コーナーでは留学生とグローバル・スタディーズ・コースの学生と一緒に、ボードゲームを楽しみながら交流する。一般市民、学生(小、中、高、大)が対象である。2014年7月6日実施。
	5	小白川キャンパス事務部	山形から世界へー多文化交流コンサート2015	留学生をメインとした外国人による民族音楽・民族舞踊、歌唱などを通じて、一般市民に異文化を体験してもらうとともに相互理解を深めてもらい、地域における貴重な国際交流の場とする。尤教授は「国際ロータリー第2800地区山形米山学友会」会長として過去4年間連続して「山形から世界へー多文化交流コンサート」を開催してきた。コンサートの出場者及び協力者がほとんど山形大学の留学生及び国際交流サークル(IF)の日本人学生という経緯もあり、今回は、山形大学を共催者として実施する。山形市において、2015年1月実施予定。
	6	小白川キャンパス事務部	留学生対象実地見学旅行(川西町で交流)	小白川キャンパス3学部・研究科に所属する外国人留学生及び日本人学生チューターを対象とした、宿泊を伴った周遊旅行である。鑑賞・体験・交流を通じて、山形県内における歴史や伝統文化、豊かな自然、そこに息づく人々の営みを深く学び、同時に留学生或いは学生同士の交流を活性化させるのが、この実地見学旅行の主旨である。置賜地方(川西町)を中心として、熊野神社祭礼行事(獅子舞踊り)などの民俗芸能を鑑賞するほか、地域住民との共同調理作業やホームステイなどの体験を通じて、国際交流を深める。川西町において、2014年7月26・27日実施予定。

山形大学地域教育文化学部 特別講演会

21世紀は大交流の時代



2014年7月25日(金)

16:45~18:15

山形大学小白川キャンパス
基盤教育2号館2階222教室
(山形市小白川町1-4-12)

演題 「21世紀は大交流の時代」

講師 船山龍二氏

(株式会社ジェイティービー相談役)

講演者と学生との交流会：講演会終了後、
18:30から20:00(予定) 学内厚生会館2階

ふなやま りゅうじ

船山龍二氏

株式会社ジェイティービー 相談役

1940年2月 山形市生まれ

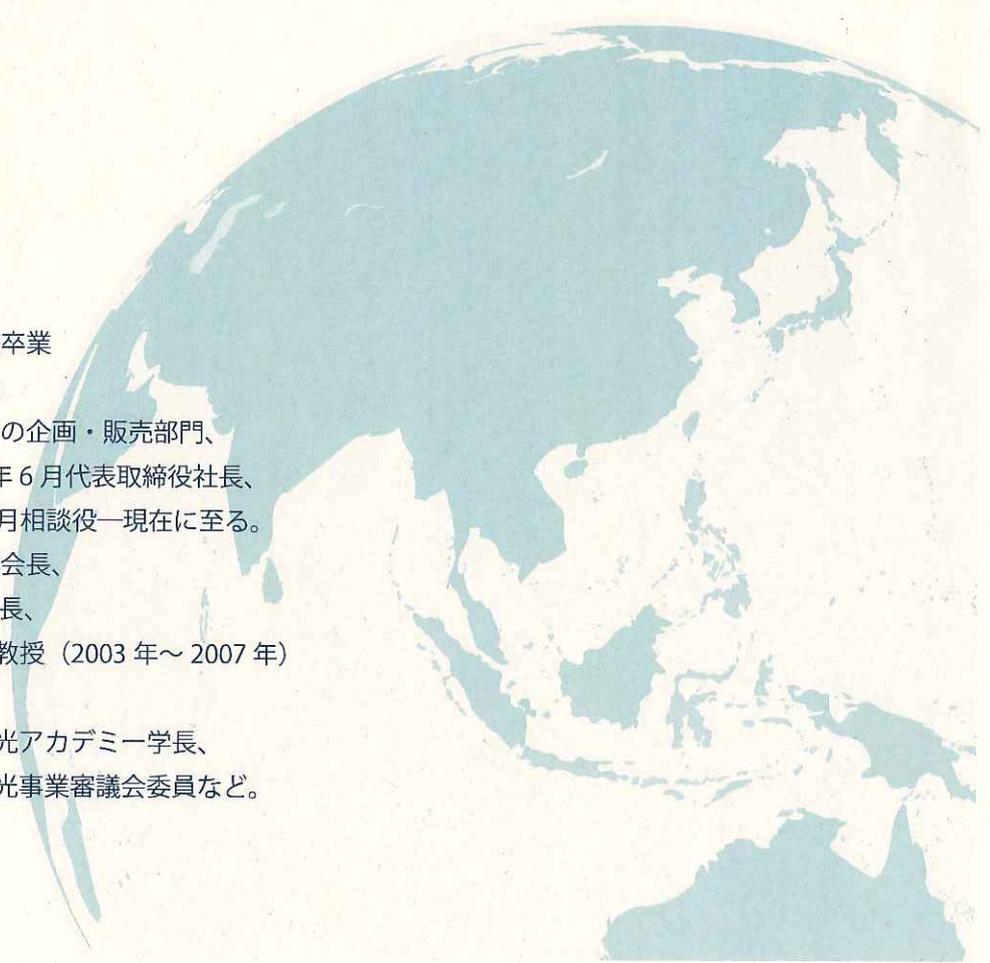
1958年3月 山形県立山形東高等学校卒業

1962年3月 東京教育大学理学部卒業

1962年4月 日本交通公社入社—旅行の企画・販売部門、
本社の経営企画・人事部門を経て1996年6月代表取締役社長、
2002年6月代表取締役会長、2008年6月相談役—現在に至る。

併行して、JATA(日本旅行業者協会)副会長、
TIJ(日本ツーリズム産業団体連合会)会長、
日本観光振興協会副会長、立教大学特任教授(2003年~2007年)
などを歴任。

現在は、ロングステイ財団会長、山形観光アカデミー学長、
観光立国推進有識者会議委員、山形県観光事業審議会委員など。



「21世紀の教育の創造」

～ ほめる・叱るに替わる教育と子育て～

講座の概要

“ほめる・叱る”教育が、平成に生まれて育つ子どもたちとミスマッチ状態のようです。本講座では、民主的な親子関係のあり方（理念）とそこでのコミュニケーション技法（方法）をセットで学べる親学習プログラムSTEPを中心とした内容を紹介し、21世紀を担う子どもたちに、民主的な関係性を経験させることのできる親や教師としてのかかわりを学びます。

全5回 公開講座スケジュール

平成26年

8月27日(水)

9月 3日(水)・10日(水)・17日(水)・24日(水)

18時00分～20時00分

公開講座

講 師 山形大学地域教育文化学部
附属教職研究総合センター
教授 松崎 学

受講対象 一般市民〔定員50名〕

受講料 2,000円

場 所 山形大学地域教育文化学部
1号館 114講義室

申込期間 7月31日(木)まで

電話またはメールで申込んでください
※メールで申込する場合は以下の内容を送信してください
●氏名(ふりがな) ●郵便番号 ●住所 ●電話番号

講座内容

第1回：8月27日(水) 『全般的理解の枠組みと不適切な行動の理解』

第2回：9月 3日(水) 『子どもの問題への、子どもによる問題解決へ向けた支援』

第3回：9月10日(水) 『親・教師の問題へのアプローチ(罰に替わるアプローチ)』

第4回：9月17日(水) 『適切な行動への支援：勇気づけ(賞に替わるアプローチ)』

第5回：9月24日(水) 『集団での所属感を育てる支援：集団による問題解決支援』

申込先・問合せ先 山形大学 地域教育文化学部 事務室

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12 Tel: 023-628-4304 E-mail: kyosoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

土壤微生物・植物・昆虫間の相互作用

● 期日 **2014.9/20.Sat**
9:00～16:00 (受付は8:30より開始)

- 会場 山形大学農学部3号館
- 対象 高校生／定員20名
- 参加費 無料(昼食付)
- 申込締切日 2014.9.5(金)
- 参加ご希望の方は9月5日(金)まで、E-mail、FAX、電話で下記お問い合わせ・お申込み先までお申込みください。

生物の多様性は、進化および生物圏における生命の維持のため重要ですが、すべての生物(微生物、植物、動物)は、個々に生きているわけではありません。それぞれの生物種は、他の生物種とともに一定の生物圏の中に組み込まれて生存競争のもとで相互依存的に生息しています。そこで本プログラムでは、最初に土壤微生物、植物、昆虫を対象としたインドネシアと日本で実施した研究成果を紹介し、次に、土壤微生物、植物、昆虫を対象としたそれぞれの実験を行います。

未来博士号が授与される 高校生対象特別プログラム

- 講師／安田弘法教授
西澤隆教授／俵谷圭太郎教授
村山秀樹教授／佐藤智准教授
- 講義／生物の多様性を考える
～土壤微生物・植物・昆虫間の相互作用～
- 実験1／土壤微生物を観察する
～菌根菌の役割～
- 実験2／植物を分析する
～ポリフェノールの役割～
- 実験3／昆虫を観察する
～植食者と捕食者との関係～
- なんでも質問コーナー

生物の多様性を 考える。

主催:山形大学農学部

●お問い合わせ・お申込み先／山形大学農学部企画広報室
山形県鶴岡市若葉町1-23 〒997-8555 tel.0235-28-2911 fax.0235-28-2812
E-mail:nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



リサイクル適性(A) この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



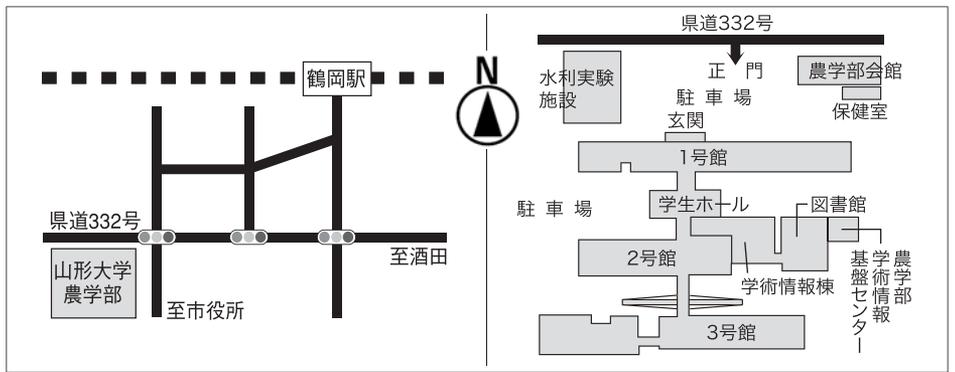
未来博士号が授与される、高校生対象の特別プログラム

生物の多様性を考える。

●当日のスケジュール

- 8:30~9:00 受付 (3号館4階401講義室)
- 9:00~9:15 開講式 (あいさつ・オリエンテーション・科研費の説明)
- 9:15~10:00 講義 / 生物の多様性を考える
..... 土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用
- 10:00~10:15 休憩
- 10:15~11:35 実験1 / 土壌微生物を観察する
..... 菌根菌の役割 (休憩10分含む)
- 11:35~12:35 昼食 (実施担当者・協力学生と参加者の交流会)、休憩
- 12:35~13:55 実験2 / 植物を分析する
..... ポリフェノールの役割 (休憩10分含む)
- 13:55~14:25 クッキータイム
- 14:25~15:45 実験3 / 昆虫を観察する
..... 植食者と捕食者との関係 (休憩10分含む)
- 15:45~16:00 修了式 (未来博士号授与、アンケート記入、記念撮影)
- 16:00 終了、解散

土壌微生物・植物・昆虫間の相互作用



この申し込み用紙に必要事項をご記入の上、ファックスでお申し込みください。

fax.0235-28-2812

参加申込書

平成 年 月 日

●お名前 (フリガナ)			<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性	
●ご住所 〒 <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/>				
●TEL ()	●FAX ()	●メールアドレス		
●学校名	●学年 () 学年	●年齢 () 歳	●家族・学校関係者見学(参観)の有無 <input type="checkbox"/> 参観あり <input type="checkbox"/> 参観なし	●保護者の同意の有無 <input type="checkbox"/> 同意あり <input type="checkbox"/> 同意なし
●このプログラムに期待すること				

●ご記入いただいた個人情報については、本事業に関する準備、連絡以外には使用いたしません。●不明な点などがありましたら、下記までご連絡ください。

〈お問い合わせ・お申込み先〉山形大学農学部企画広報室
山形県鶴岡市若葉町1-23 〒997-8555 tel.0235-28-2911 fax.0235-28-2812
E-mail.nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

ときめき、ひらめき、サイエンス

検索

●下記のホームページからお申し込みができます。

<http://www.jsps.go.jp/hirameki>

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

